

武蔵野市補助金評価委員会第10回議事録

開催日時：平成21年3月26日（木）

午前10時から正午まで

場 所：武蔵野市役所 第812会議室

出席者 堀場勇夫委員長、青木宗明副委員長、高見慎和委員、萩野紘一委員、
松井望委員、山田功委員。

青木事務事業見直し推進担当部長、高橋財務部長、山本企画調整課長、
竹山財政課長ほか

1 開 会

○委員長 それでは、第10回補助金評価委員会を始めます。

2 議 事

（1）報告書について

○委員長 本日は、報告書について議論していきます。

それでは事務局より説明をお願いいたします。

○事務局 全体像として2回ほどメールで送りし、ご意見をいただいて、修正をしたものを数日前に送りいたしました。その後のご意見は、配付しましたものです。数日前にお送りした全文の案から修正がかかった部分は、二重消し線等でわかるように修正をしております。

図のところでは、9ページの、協働と援助を左に持ってきて、a b c d e fと、数字をそれぞれアルファベット番号に直しました。表等で一部直っていないところがあります。評価項目等でも、ご意見があれば、修正したいと思います。

以上でございます。

○委員長 それでは、本日は最終の論議になりますので、内容に関しまして、何かご意見がございましたら、よろしく願いいたします。

○委員 補助金の評価は、一次的には所管課で行うということで、その所管課が評価したものをさらに二次的にチェックするという仕組みがないように感じるのです。評価の結果

に関しては、評価結果は公表もそうですし、二次的な上司なり第三者なりの評価も必要という話もつけ加えたほうが良いと考えています。

○委員長 所管課の評価の後に大局的な評価はどうしましょう。

○委員 事務事業の場合は、そういうのがありますね。

○事務局 事務事業評価も、所管の評価と二次評価という部長級の評価があります。補助金も、基本的には所管で評価した後、財政課で、予算の査定という評価はしますし、補助金は基本的に全部市長査定をしていますので、その中でその評価に基づいて市長も査定をする。その二次評価部分というのは、予算編成という中で評価するという理解をしています。例えばこういうことも必要だろうということであれば、それは今後の課題としてというところだと思います。

○委員長 予算過程における財政課の評価は、記述がございませんか。

○事務局 流れ図が 12 ページにあります。「財政課査定」というところが 1 つの評価。各所管課の評価によって、必要な補助金ということで予算要求をするわけで、この 12 ページの部分で、その後の財政課の査定や市長の査定が 1 つの評価だと理解しています。

○委員 これは予算の段階での評価ですね。実績に関する評価はないのでしょうか。

○事務局 実績については、この部分での評価は特にはないです。

○委員長 入れるとすれば 13 ページの後に入れるか、今後の課題で入れるかですが、いかがですか。

○委員 前回の委員会の中で、その部分については情報公開の部分ですとしていました。20 ページの「透明性の確保」の中の「評価の開示」の中で、例えば情報開示を要求された場合に、どの程度まで情報公開するというような事務局としての考え方は、もう固まっているのですか。

○事務局 これ自体は、スキームづくりだと思います。この部分でスキームをつくりますと、補助を受けている団体は、こういうスキームで補助が行われるということを、理解します。また、自分の団体はどうかと考えますし、団体には、こういう評価をしました、今後こういうことをしないと補助が継続しませんよという投げかけです。被補助者に対しては積極的に開示するというのがこのスキームだと思います。

○委員 先の委員の発言は、その結果について、さらに第三者に評価すべきであるとのことですね。

○事務局 補助金が例えば単年度であると、この評価というシステムが 1 回で終わります。

委員ご指摘は、実績評価ですから、補助の事業が全部終わったときにどう評価するかという部分は、今回は触れてはいませんので、例えば単年度の補助金で、補助金が終わったときに、その成果をどう公開するかとか、どう評価するかという部分はないです。

○委員 20 ページの「透明性の確保」の「3) 評価の開示」に、「所管課による評価は、ある意味自己評価でもあり」云々というところがあって、その続きとして、それを補うための方法として、透明性を確保するために、実績に関して第三者で評価して、その結果を公表するとか、それを目指していくところじゃないですか。

○委員 委員のご指摘は私も全く同感で、20 ページの(3)の3)の後に、実績評価の部分として今後、実績の評価のため、透明性を確保するために実績の評価を検討するなり構築することが望ましいなり、すべきである、それを記載したほうが良いというのは私も全く同感です。

もう1点は、13 ページの書きぶりですが、フローチャートを踏まえて13 ページの(3)で補助金調書の説明も書いてあるのですが、評価シートを作成して透明性を確保する。これは今回の目的の1つなのですが、さらに、まさに評価の部分を強調するためにも、例えば予算要求や財政課査定、また市長査定の段階においても、補助金評価シートを活用するとか、必ず説明の機会を設けるとか、予算要求の段階で資料として添付する。添付だけでは少し弱い気がするのですが、主管課の査定で終わるのではないというニュアンスを残して、評価のポイントとして、市長まで上りますというのを示しておけば、政治的な判断もあるでしょうし、対外的な説明も成り立つかと思います。財政課査定や市長査定においても、この資料を活用する、提出して評価を行うということを(3)の3パラグラフにするか、4パラグラフにするか、記入していただければいいかと思います。

○委員長 どうでしょうか。

○副委員長 1つは今出たところを2つに分けたほうが良いと思います。内部の自分たちの仕事としてやること、13 ページと、それを補うものという意味で20 ページは連携しているのですが、13 ページ抜きで20 ページばかりやると、これはかなり無責任なことになりますから、13 ページはしっかり書いていただいたほうが良いと思いますし、新しい仕組みを入れたときに、主管課は、手間ばかり増えて何でこんなものを入れるのだという話になるのです。だれが考えても予算と連動しないとおかしい、反映する手段あるいはルートがないとおかしいという話になりますから、ここははっきり制度として、この委員会として、内部の評価、予算査定に生かして、市長の政策判断も含めて有効な材料にするとい

うように、かなりきつ目に書いておいたほうが、私はむしろよろしいかと思えます。

それと、第2番目の、それを補うものとして公開しますよということは、非常にいいというか、これがないとむしろお手盛り批判も出かねない。もう1ついうと、皆さんのご議論を聞いていると、むしろ積極的にこの部分はできるだけ公開していきますよと。開示請求云々の話ではなくて、開示請求がなかったとしても、だれでもその辺で見られますよという姿勢を出しておかないと、ここが一番公務員の疑われるところですので、都合の悪いことは出さないというのはどこの組織もそうですけれど、当たり前のことなので、むしろここは、我々としては、市民の代表の委員会ですから、開示請求云々、情報公開云々ではなくて、むしろ積極的に、情報は表に出すのが補助金制度であるというところまでいい切ってしまったほうが、報告書としては締まるでしょうし、我々の責任は果たせるのかと思えます。

○委員長 13ページの(4)の次に(5)をつくって、補助金調書及び補助金評価シートの活用という項目を立てて、委員が申されたような内容を内部的に入れる。

これは入れてほしいという後段の20ページの話ではなくて、つくったものを活用するという制度設計にしてはいかがかと思いますが、何かご意見はございますか。内部的な作業の話に伴って12ページの提案後のところの図が変わってまいります。つまり、部長会なのか、どの組織を使うかは、組織名か具体的な手順を(5)に入れていただいて、それを12ページの図に差し込むということはできますか。

○副委員長 新たな仕組みを入れる必要があるかどうかはわからないのですが、少なくとも「主管課による査定」、「財政課査定」、「市長査定」、この3つがいわばチェックポイントですから、ここを少し目立つような形にすれば、私はそれだけでも十分だと。

○事務局 例えばシートによる財政課の査定も、今のお話で考えています。

○副委員長 「財政課査定」と書くと目立たない。「財政課による査定」あるいは「予算過程での査定」とか。

○委員長 先ほどの話だと、部長会がありましたね。

○事務局 それは、事務事業評価の仕組みです。

○委員長 それに合わせたらいかがでしょう。というよりも、委託に関しては事務評価の枠組みの……。

○事務局 委託は事務事業評価シートでやりますから、当然二次評価となります。

○委員長 それにこちらもおわせておいたほうがよくないですか。

○事務局 今回お願いした1つの成果として、予算編成過程に、これまでははっきり見えていなかった評価というものが入ってくるというのが、ある意味大きな変革なのです。

ただ、事務事業についても、今まだ制度を試行して設計中という段階なので、行財政改革本部という枠組はあるのですけれども、全ラインの部長で行うか、もう少しコンパクトにした理事者と企画財政人事あたりの組織にするのかというところがまだオーソライズされてないところです。

○委員長 委員の皆様のご意見は恐らく、(3)、(4)とつくったので、これをきちんと組織的に運用する段階で用いてほしいということだと思いますので、やはり大事なことだと思いますので、このままだと、形式的につくったけれどもという意見が出かねないので、そこを(5)に入れるということ。

もう1つの点ですけれども、20ページは、今後のところでよろしいですか。つまり、情報開示で、この評価シート調書、どこまで開示するかわかりませんが、積極的に開示する。

○副委員長 言葉としては「積極的に」はぜひ欲しいです。

○委員長 「積極的に」が要るそうです。あるいは「前向きに」。

○副委員長 それは本当に書きぶりです。

○委員長 それを「透明性の確保」として、今後その方向で検討してもらいたい。

もう1点出ましたのは、外部評価委員会ですね。これは意見がまとまっているかどうかわかりませんが、「それも考えられる」というような書きぶりになりますか、今の委員の皆様のご意見では。その辺は、「今後の課題」の(3)に書き込む作業になると思いますが、何かご意見はございますか。

それから、私が気になったのは19ページ「運用について」の2行目ですが、「その運用方法は市に一任することとします」というのは、やはりまずいのではないかなと。最後に一任してしまっただけでは。これは言葉の問題です。

○副委員長 ここの部分が、前回、委員長に対して申し上げた、「あとがき」で少し厳しく書いていただきたいということなのですね。

部長会が本当に機能するのかとか、外部評価委員会でどういう人を入れてやるのか、これも全部運用なのです。厳しい制度をつくっても、そここのところでは全部骨抜きしようと思えば全部できますから、我々としては厳しく書いて注文をつけておくしかないのです。それを守ってやるかどうかは、武蔵野市の姿勢ですし、公務員の皆さんの考え方一つなので

す。

余り厳しいルールをつくっても、むしろ余りよくないので、これは本当に、あとはもうお任せするしかないというのはそのとおりなのですが、この表現はよくないです。だから、そういうこともあるよということを、書いておくしかないですね。

○委員長 この文言。最後の最後に「一任します」となると……。

○副委員長 これはよくないですよ。

○委員長 全部壊れてしまうような印象があります。「市が主体的に行うべきものであり」……。

○副委員長 市とは何かというの。人間じゃありませんから。責任があいまいですね。

○委員長 これは、「補助金評価制度の運用は市長のもと、市と市民が主体的に」か「市長のもと」は要らないか、「市民と市が協働で行うべきものであり」のほうが、趣旨には沿っていますね。「その運用は、その主旨を踏まえて十分」、その主旨を尊重して運用してほしいみたいな文言が恐らく正しい言い方かもしれないですね。

要するに、基本的な姿勢としては、補助金というのは、本委員会は財政削減の手段として用いるのではなくて、前向きにとらえたいと。その前向きなものを踏まえて、市民と市が積極的に運用してほしいということですね。透明性を確保しつつ、普通の補助金の考え方とは違う、改革とは違う方向で考えていますので、そこをうまく書いていただければと思います。

○事務局 いい文案をお出しいただきたいと存じます。「本委員会の主旨は」の前の部分は、検討します。

○委員 この報告書は市長に対して出すのでしょうか、これは公開されるのですね。

○事務局 されます。

○委員 どなたでも自由に。

○事務局 ホームページ等で出す予定です。

○委員 全体的に言えば、わかりやすくされたほうが良いと思うのです。委員長、副委員長のお話のような形で、報告書としてはこうなのだけでも、やっぱり趣旨が、先ほどからいわれているように移行させていく、前向きな方向でとらえているんだという趣旨がわかりやすく、随所に出てきていると思うのですが、そういう形で書いていただければよろしいのかなと思います。

もっと細かいことですが、プラン・ドゥー・チェックなども、経営者には当たり前の言

業だけでも、一般市民の方がさっと入ってくるかという気もします。わかりやすくしていただければ、市民の方もこういう形で論議したことがわかってくれるという気がします。

○事務局 P D C A サイクルについては、下に注釈等を入れる形にしたいと思いますけれども、ほかに注釈等を入れるといい言葉があれば、ご指摘いただきたいと思います。

○委員 皆さん専門家ですから、それが当たり前言葉になっていると思います。

○委員長 5 ページの図の、軸について書いてあるのですけれども、軸がないのですが。

○事務局 この横棒を軸として書いているのですけれども、わかりにくいですか。

○委員長 「性格軸」というのが下から4行目にございますね。これは「性格軸と補助金の対象軸を考えた場合」、図が悪いということではなくて、「軸」という言葉があるにもかかわらず、いわゆる軸がない。

○事務局 「援助」「協働」「委託」の右側に「補助金性格軸」と、その下のラインが「対象軸」という趣旨ですけれども、わかりにくいというのであれば、ここも直します。

○副委員長 最初どうやってつくりましたっけ。クロスさせていましたっけ。難しいのですよね、これはいろいろ悩んだのです。

○委員長 その他、ございますか。基本的なところで……。

○委員 10 ページのフローチャートですけれども、メールでも書いたのですが、事業費補助と運営費補助の区分ですね。今、区分するとき、これに該当するものは運営費で、それ以外は事業費ですという形になっているのですけれども、これだと多分グレーなものが出たときに、恐らく事業費がどんどん膨らんでいくような形になると思います。ここは、こういう事業費補助を定義して、これに該当すれば事業費補助、該当しなければ運営費補助という形にしたほうがいいと思います。

例えば、補助対象の事業を廃止したら発生しなくなるような費用が事業費補助、該当したら事業費補助、該当しなかったら運営費補助とか、そういう定義の仕方にしたほうがいいと思います。

○委員長 それは運用段階の何か冊子をつくられるでしょうから、そのところでやりませんか。それとも、ここに入れ込みますか。

○委員 少なくともフローチャートの中で、これを満たせば「YES」、満たさなければ事業費という形は、まずいかと思います。事業費、運営費の細かい定義は、運用段階でもっと細かいルールを決めないといけないと思いますけど、考え方として、事業費を限定するという考え方自体はフローチャートに反映させたほうがいいと思います。

○委員長 事務局、委員と相談をして、最後の事業費補助と運営費補助のところの書きぶりを調整できますか。

○委員 グレーゾーンというのはどういうものを考えているのですか。

○委員 これだと、この3つに該当しない費用は全部事業費補助にしていよいよもとれるのです。例えば、この中から、最初の原稿にあった「団体の構成員の飲食や親睦に関する経費」を外しているのですが、それはここに該当しないので、じゃあ「NO」だから事業費補助。そうすると、このフローチャートのこの判断の中に運営費補助に該当するものを全部洗い出さないと、「NO」になっちゃう。そういうのは事実上、無理なのかなと。

○委員長 逆がいいですか。「NO」だと運営費補助に行くようにしておいて……。

○委員 逆にしても何にしても、これはあくまでも個別列举にした場合には例示にしかすぎないですね。

○委員 「等」とか何かやっておいて。

○委員 書きぶりとしては、個別列举にするということはむずかしいのではないですか。

○委員 ぴったりというのは難しいでしょう。

○委員 これは個別例示的に、性格類型的に分けるようなことしかないかという感じがします。

○委員 私もそう思いますね。ここだけで判断しろというと、かなり難しいでしょう。

○委員長 ただ、この「YES」、「NO」の形ですと、むしろ事業費補助にどんどん「その他」の事項が入っていくので、むしろ運営費補助に入れておいて、なるべくある条件を満たすように事業費補助にしてくださいという方向ではないかという感じがします。

だから、運営費補助に最初はどんどん入っていくのだけれども、条件を決めておいて、あり得べき姿の補助金の事業費補助に移って行ってくださいというのが趣旨だったように思います。そうすると、「YES」、「NO」は逆になりますね。

○委員 ただ、「YES」、「NO」を逆にしても、もしこれだけで、この表を規定するのであれば、無理があるから、ある意味これは例示あるいは運営費とか事業そのものの規定をしておかないと誤解を招きやすいですね。

○委員 迷った場合にどうするかということだと思うのです。明らかなものというのは判断を迷わないと思うのです。迷ったときにどう考えるかというところで、迷うものについては運営費補助でいいと思うのです。運営費補助から事業費補助にするためには、お金の使い方というもの自体も事業費補助にあったお金の使い方に変えていかないと、補助金の

形だけ変えても、団体は対応できないと思います。

○委員長 グレーゾーンに入ったときに運営費補助にするのか事業費補助にするのかという問題だと思うのですが。

○委員 迷ったときに、どちらが厳しいかという話だと思います。そうすると、これは「YES」を入れかえたほうが、厳しいかと思いますね。

○事務局 そうすると、ここのダイヤモンドのボックスの中の記述が逆転して、補助対象経費に直接事業費以外の以下のような経費が含まれていませんねとなる。事業費オンリーだったら「YES」に来てということですね。

○委員 事業費オンリーだったら「YES」に来る、そうですね。

○委員 中身も少し変えないと、単純に「YES」、「NO」だけ変えても。

○委員長 言葉が逆になりますね。

○委員 私がお送りした文案だと、補助対象の事業をやめたら発生しなくなる費用のうち、ここで並べた3つ以外のものは事業費ですよという文案にしていたかと思います。

○事務局 ここはもう一回直して、修正案を各委員に。

○委員 補助費対象事業に「以下のような」とかいうことであいまいにして、個別にするか。

○委員 委員がいわれるように、迷ったときに自動的に判断するのか、どこか判定する人、機関があって判定していくのか、それによっても違ってきますね。グレーゾーンになったときに、どこで判定するのか。査定のところで行うのか、その前のところで行うのか。それをきちんとしておけば、今いわれている心配がなくなってくるのかなと。

○事務局 グレーなときに運営費補助に流すという趣旨で、ここのチャートを見直してみます。

○委員 この3つがあれば、「YES」、「NO」は規定してもいいのですか。これはあくまでも例示だと思っていたのですけれど。この「YES」、「NO」云々だけで、事業費の補助と運営費補助だというふうにこの委員会は規定しましたというと、ちょっと……。

○事務局 団体の性格によっていろいろ出てきますから、例示以上のものではありません。

○委員長 11 ページのところになにか記述を加えていただけますか。図は全体の枠組みを示す例示であるみたいな。

○委員 そのほうがいいですね。

○委員長 その趣旨を図にすると、このようなものになると。その細目については、それ

こそ事務局で検討願いたいという話になると思うのですけども。

そうするとどこかに運営費補助から事業費補助へ移行すべきだという文言は要るでしょうね、基本的な姿勢として。11 ページのどこかに要るでしょうね。

○事務局 この11 ページの文章以外に必要ですか。

○委員長 大丈夫だと思いますけど、(4)を入れますか。今まで述べたことについて図にすると、チェック表のようなものになるというような、注か何かで入れますか。それとも、(3)の下に入れますか。それをいかがいたしますか。(4)で、その全体の流れ図を説明するという方法はあるかと思うのですけど。「以上のようなことをまとめると、チェック表のようなものになる」と。

○副委員長 あったほうが良いと思うのですけど、図表が全部番号を振っていないのですね。

○委員長 図番号を入れた上で、図のようになるというのを11 ページの(4)に立てる。

○副委員長 大事な表なので、少しメンションしたほうが良いと思いますけどね。

○委員長 そこで記載するのは全体の枠組みであって、その細目にわたる云々という文言ですね。

○副委員長 ただ、難しいのは、例外をかなり認めますよとかサンプルですよといい切るのも危険だし、いわないのも危険だし、両方なのですね。結局また運用なのですけど、判断に迷うのは出てくるのですけれども、それをわざわざ書いておくべきなのか、そういうのは当然のこととするのか。

結局最後は、普通にいえば、内部のチェックと外部のチェックで、そんなのはおかしいだろうという声が出てきて自然に修正されるというのが普通の姿で、すべてをきちんと分けようというのは無理なのですが、それがわかった上で、そのことを書いておくのか書かないのかどっちかですね。

○委員長 最後の運用のところをきちんと書く以外にないですね。

評価シートの該当評点の評点に関しての記述はありましたか。この評点というのは、17 ページ、18 ページにあるのですが、この評点を何々によってするという記述は必要ないですか。どこかに書いてありますか。

○事務局 これは、ないです。

○委員長 たしかマル・バツでいいのではないかというような。

○副委員長 大事なところですね。

○委員長 評点の合計、要するに 13 ページの評価シートをつくるということは書いてあるのですけれども、評価シートの中身に関する説明がどこにもないように思うのです。要するに、評点をどうするとか、評点の合計はどうやって出すのだとか、判定結果はどうやって出すのだとか。

○副委員長 多分単純な合計だと思って書いていないと思うのですが、当たり前のことでも書いておいたほうがよいです。当たり前のことが当たり前じゃなくなることがある。加重されることもありますから。一応プロセスは書いておいたほうがよろしいでしょう。

○委員長 このシートを使って、こういう評価をするのだという記述はやっぱりどこかに必要ですね。それで、「評点」の左側の「該当」というのがよくわからなかったのですけれども。

○事務局 ここにマル・バツを入れます。

○副委員長 ここはマル・バツですよ。

○事務局 マル・バツを入れて、そのマル・バツで点数をつけるというシートです。

○副委員長 わかる人とわからない人がいるので、全部書いておいたほうがいいですね。

○委員 文章として書くのも 1 つあると思うのですけれども、もう 1 つは、よくある吹き出し的なもので、こっちが丸で、こちらは点数とか。例えば、この委員会でも、「目標・成果」はここでは空欄になっていますけれども、例えば数値を入れたほうが望ましいという議論がありましたけれども、そういう記載上の留意ではないですが、ポイントとなる事項。歳出、歳入の状況などについて、あえて 2 つに分けていますよというものも、ポイントとしてあえて分けているわけですから、こういう趣旨があると。吹き出しでもいいですし、13 ページの (4) を受けての説明なのかもしれませんが、文章で書くか、もしくは吹き出しで書くか。ぱっと見てわかるようにしておけば、運用でどうでもなるふうではなくて、我々の委員会としての審議の経過を踏まえた運用も期待できるかと思しますので、できる限り説明をつけたほうが良いと私は思います。

○委員長 それはいいアイデアですね。

13 ページの最後のシートのところに、「その具体的な評価方法については以下に例示してある」として吹き出しを入れれば一番わかりやすい。1 つの例示として、「以下のシートを示しておく」というような。ここでいろんな議論が出されたことを吹き出し形式でなるべくたくさん入れていただければいいかと思えます。

「あとがき」はよろしいですか。副委員長。

○副委員長 例えば部長会、市によってはお互いの部のことは口を出さないというところもありますし、そうなると、部長会なんてかけたって意味ないという話になります。あるいは予算査定そのものがどこまで踏み込んでやれるのかも市によって違いますし、そういういろんな違いはあるにしても、多かれ少なかれみんな市民からすると疑っているわけですから、それを前提に書いたほうが、現実の報告書にはなるだろうなと思います。私としてはもう少し踏み込んで書いたほうが、読んでいる市民としては納得できるだろう。

委員長か私かが書いたほうがいいのかというふうには思います。

○委員 お任せします、ぜひ。

○委員 副委員長がいわれたように、ぜひ具体的に書いていただいて、ちょっと読んでみたいですね。

○委員 20 ページの「透明性の確保」のところで、1)、2)、3) で、2) と3) が1行でも補足があって、1) が「明確化」ということだけで補足がないということと、この「評価の開示」というのは、ここは最後のところだと思うのですが、使途の開示というところで「公表すべき」と、ここではマストで書いてあって、開示のところは2行で「必要です」とありますが。

○事務局 特に意図はないです。

○委員 最後のところですから、公表すべきですというところ、ないしは「明確化が求められます」とか、今後そうしていきますとかいう、やや宣言的な形で、ここはうたっていただければ非常にありがたいと思います。やっぱりトーン全体を同じベースにしたほうがいいということです。

○委員長 先ほどの点も踏まえて、3) をもう少し膨らませましょうか。最後の最後ね。

○副委員長 1) は中身がない。中身の無いタイトルはあり得ないですよ。

○委員 ここは、やや気がかり。

○委員長 その他、何かございますか。

○委員 11 ページの真ん中に図があるのですが、補助形態のところ◎、○、△、×と4つ記号があるのですが、何となくわかるのですが、これは何をいっているのかわからないかと思うのです。恐らく協働型補助金で事業費補助がこの委員会としては一番望ましい、目指すべき目標であるということをしている。次は援助型で、事業費が2番手だけれども、まあいいだろう。3番目としては、協働型で運営費補助がいい。最終的な援助型でも、運営費補助はちょっと認められないなという価値評価を入れているのだろうなとい

うことはわかるのですが、それに対する説明がないということと、それであれば入れたほうがいいのか、そもそも◎、○、△、×という4段階を示すことが本当に適切なのかというのはちょっと難しいかと思います。書くのであれば説明を入れたほうがいいかなと思います。

○副委員長 私もここは思ったのですが、こういうのは意見しにくいので、どうしようかと思ったのですが、表で意思を伝えるのが今回とても多いのですが、それで果たして本当にいいかどうか。とても日本的な報告書で、ここに置いておけば伝わるでしょうということですね。突っ込もうと思えばこういうのは幾らでも突っ込めるのです。

今度は逆に、書き込まなきゃいけないとなると、これはもう文章はどうにでも読めることになりますから、どっちもどっちなのですが、それも含めて少しバランスをとったほうがよいと思います。それも含めて最終的なチェックを委員長に入れていただいたほうがよろしいかと思います。

○委員長 この表で行きますと、事業費と運営費は事業費にという意味があると思う。協働型、援助型ではなるべく協働型に移行すべきだということによろしいですか。それでこのマル・バツになっているのですね。

○副委員長 これは全体のトーンですから。それも既に書いてあることですから。

○委員長 援助型から協働型に移行すべきだという文言は、どこに記述されておりますか。

○副委員長 文章にはなっていないのですね。協働型へのシフトは、5ページあたりから6ページにかけて書いてないわけではないのですが、はっきりはいい切っていないのです。どんどん最後まで突っ込んだほうがよいと思うから、最終的なチェックをかけていただきたいなと思います。

○委員 7ページの援助型の補助金の説明の評価のところ、援助型は毎年ゼロベースですよと。援助であっても、協働に移行するのであれば協働でやりますよという、そこまでは書いてあるのです。

○委員長 その考え方でよろしいのですね。

○委員 6ページのところに最後の結論が書いてあるわけですね。「市が今後目指すべき補助金の姿を明確にすること」という一文です。

○委員長 何かありますか。委員の方々からはほぼご意見を賜ったのですが。

○事務局 今の援助から協働へというのは「はじめに」以降でおわせてはきていたのですが、確かにその表現として援助から協働へというのが、ニュアンスとして出てい

でも、表現としてはっきりはしていない部分があるので、それを例えば先ほどご指摘の11ページのところあたりにも書き込めるのかと。ここは、運営費から事業費へとしかいていないのですけれども、もう1つの◎と○は、援助から協働へという、ある意思を表明しています。

○委員 議論しているから、これはこういう判断だという形なのですね。先ほど申しあげましたように、一般の市民の方が見たときにわかりやすく書いていただければ一番ありがたいなと思いますし、先ほど副委員長もいわれたように、図に対して、図1とか図3とか、それをあらわしたのはこれです、その表現がほとんどないのです。ただ突然表があらわれてきているという感じがするので、その辺をやっぱり、初めて見た方が理解しやすいように書いていただければいいのかと思います。

先ほど、委員がいわれたように、◎、○のところも、線をもうちょっと明確に。上の協働型と援助型のところの補助形態のところできく線を引いて、枠をあければ、この◎は上なのだな、○は下なのだなと、わかりやすくされるといいと思います。

一般の方には、この◎、△はどっちへ入っているのだろうと思うケースがあるかと思いますがね。

○委員 ◎の定義も必要になってくる。

○副委員長 少し当たり前だと思って省略し過ぎているのは事実ですが、どこまでそれをやるべきかは、最終的には委員長の判断に私はお任せしたいと思います。例えばですけど、◎がいいのかということも含めて、本当に書くべきなのか。×が悪いのかということ、逆に、変な言い方すれば、×がいいという評価だってあり得るわけですから、そこも含めて委員長がどう判断されるかです。

○委員 ただ、ここでの議論では、最終的に◎で、協働型で事業費補助というのが望ましいというふうになっているから、この委員会ではこちらが◎ですよということですから、×がいいというふうになっていないです。それがわかるような形であればいいと思っています。

○委員長 ここはちょっと検討しましょう。

○委員 委員長にお任せするのが私は一番いいと思うのですが、◎と×の質的な差とか、そういうことまで行くと、これは切りがなくなります。

○委員 そう、切りがなくなります。

○副委員長 最低限の書き込みはしなければ、これは余りにも親切じゃないですから。

○委員長 事業費補助に、運営費補助から移行してくださいということと、援助型補助から協働型に移行してくださいという、この方向性はいいのですけども、援助型運営費補助は×かという、これもやっぱりあり得るわけですね、最初の段階では。

○委員 あり得ますけれども、毎年毎年単年度で終わったらゼロベースでもう一回査定し直せという形ですね。だから、×ではないのですけども、毎年毎年きちんと査定していけばいいわけですね。それをはっきり。どこかでうたっていましたね。それをもうちょっと強く。

○委員長 この表は、ちょっと疑問符かな。

○副委員長 そこまで否定はしないのですけど、いい出すとこれは切りがないのですよ。わかりやすくするためにはこの形式がいいのですけれど。ただ、余りにも今ちょっと省略し過ぎているのです。

○委員長 ちょっと相談しましょう。

○副委員長 疑問符がつくのですが、私は残してもいいと思うのですが、その辺の最後のバランスのとり方ですね。

○委員長 文言の内容をちょっと見てみます。

○副委員長 最終的なチェックとしてぜひ入れていただきたいのは、外からどう見えるかなのですけど、例えば3ページのところで、財政力指数 1.6 と書いてあるのですが、これも委員長に判断していただきたいのですけど、ここの部分だけ単独で歩いちゃうと、思い上がっていると思われれます。ちょっと強過ぎです。外からどう見えるかを最終的に委員長が判断していただきたいのです。

例えば、この3ページの1.6でいえば、今、これだけ世の中が大変だ、大変だといっているときに、今さら1.6と自信を持って言うかということも含めて。ですから、例えば「現時点までは」と入れれば済む話です。そういうことも含めて、これは今、単純にサンプルですけれども、最終的なチェックはぜひやっていただきたいなというところです。外からどう見えて、この報告書がどう読まれるのかというのは、1つ1つ、この文章の1個1個について、最後はやらなきゃいけないので。私ももちろんやりますけれども、委員長にその部分はぜひお願いをしたい。

○委員長 それは私と副委員長でやりましょう。

○委員 ぜひお願いします。

○委員長 原案はいつまでですか。

○副委員長 全部やってもらいたいわけです。

○事務局 1週間ではきついかと思います。

○委員長 その上で、各委員に再度最終確認をしていただいて、それでという話ですね。手はずとしては、それでよろしいですか。もう一回お集まりいただくのはなんですから。集まったほうがいいということであるならば集まりますが、いかがいたしましょう。メールのやりとりでよろしいですか。

○事務局 できればメールで。

○副委員長 確かに年度の区切りはいつも悩むのですけれど、報告書のクオリティーが許せるところまで来ていればいいですけれど、これは皆さんの総意です。年度が来たから出しましょうでいいのですかという話でちゃぶ台をひっくり返してもいいのですよ。そんなの通さないよといえ、それで終わるのですから。それでいいのでしょうかということを一応確認されたほうが。

○委員長 いかがいたしますか。もう一度集まりますか。それとも、今の意を受けて、私と副委員長とで字句訂正ないしは内容訂正を入れてメール段階のやりとりで……。いかがいたしましょうか。

○委員 まとめていただいたものを送っていただければ私は見ますし、それに対してリプライも当然します。最終的には、そういったら語弊があるかもしれませんが、委員長、副委員長に取りまとめていただいて私は構いません。

○委員 私も同じ意見ですね。

○委員 私は、基本的な内容は盛り込まれているというふうに思っていますので、あとは字句の問題、定義の問題等々。食い違い、齟齬はないと思いますので、ぜひ委員長と副委員長でまとめていただければいいと思います。

○委員 メールで送っていただいたものをまた見て回答したいと思います。

○委員長 それでは、これを原文にして、今のご意見を青か赤で入れ込んで、どこを変えたかというのをわかるような形でやりとりを、できれば数回やって、4月いっぱいぐらいでよろしいですか。4月いっぱいぐらいに終了するというので作業いたしたいと思いますが。

では、そのような手はずでやらせてください。

あと、事務局は何かありますでしょうか。

(2) その他

○事務局 でき上がりましたら、市長への報告をするような形になります。具体的に日程を今日決めるのは難しいと思いますので、また完成した段階で、メール等で日程調整をさせていただきます。市長の日程も限られているので、その中で委員長との日程の合う日の中で、委員さんにご都合がつけば来ていただくという形になるかと思いますので、その点はよろしく願いいたします。

あとは、お手元に前回の9回の議事録を一応置いておりますので、またご意見があればいただければと思いますし、きょうの議事録も渡す場がありませんので、メール等、議事録で最終的には書面でも郵送いたしますので、それもご確認いただければと思います。よろしく願います。

○委員長 よろしゅうございますか。

○委員 こういう委員会をやると、報告書を出しておしまいというのがよくあるのですが、制度をつくって提案するものでありますので、制度自体がどう動いているかというのは、別に集まる必要は全くないと思うのですが、定期的には、電子メールなどで、現状としては帳票をこれぐらいつくりましたとか、査定を行いましたとか、具体的な制度が固まりましたでも結構ですので、ご案内いただければ、ああ、制度が動いているのだな、思わず物がいいなくなるなというところもあるかもしれませんけれども、そのときは連絡をとれるようにしていただけるとありがたいと思っております。

3. 閉 会

○委員長 それでは、あいさつさせていただきます。本日をもちまして武蔵野市の補助金評価委員会、無事終了したということになるかと思えます。

報告書に関しましては、今、委員の皆様方のご了解が得られましたので、私と副委員長と事務方で作らせていただきます。その上でご意見を賜りたいと思います。

1年間の長い間、どうもありがとうございました。最初はどうかと思いましたが、何とか報告書にまとめられたのも皆様のおかげだと思います。厚く御礼を申し上げます。どうもお疲れさまでした。また今後ともよろしく願いいたします。

最後になりましたが、事務の方々にはご無理を申し上げたと思いますが、どうもありがとうございました。